

## 今日の説教のポイント<使徒言行録 15 章 1~21 節>

大事な信仰問題について意見が分かれて、教会史上初めて指導者たちが集まって協議したエルサレム会議。そこで見出されたこととは？

### ①「救われる」ために必要なこととは？

初代教会の中に、「モーセの慣習に従って割礼を受けなければ、あなたがたは救われない」と主張する人たちが現れました(1, 5)。気になるのは、彼らが「救われる」でどのような内容を考えているかです。パウロやペトロにおいては明白です。「私たちは、主イエスの恵みによって救われると信じているのですが、これは、彼ら異邦人も同じことです」(11)、「人の心をお見通しになる神は、私たちに与えて下さったように異邦人にも聖霊を与えて、彼らをも受け入れられたことを証明なさったのです」(8)と語っています。つまり、救いはイエス様を受け入れる人全てに与えられるものであり、救われた時に与えると約束された聖霊が異邦人にも与えられた事実を挙げています(10:45)。ですから、「異邦人にも割礼を受けさせて、モーセの律法を守るように命じるべきだ」(5)と主張する人たちの「救い」は、イエス様によってもたらされた救いとは全く別物になってしまっています。ペトロの話を聞いたヤコブは納得し、「神に立ち帰る異邦人を悩ませてはなりません」(19)と言いました。今の私たちも、キリストに出会った人たちを悩ませるのではなく、「私も受け入れたい」と思ってもらえるような喜びの福音を語る信仰者になりたいものです。

### ②「選び」と「救い」の関係は？

今日の個所には選びという言葉が二か所でできます。7節では神様の福音を異邦人に伝えるためにペトロが選ばれたことを語り、14節では彼の伝道によってイエス・キリストを信じるようになった異邦人のことが選ばれた民として語られています。使徒言行録ではさらに、彼ら順々に選ばれた者たちによって全ての民に福音が宣べ伝えられることが語られて行きます。聖書全体から聞き取るべき一番の恵みのメッセージ、それは、誰でも神様のこの救いの招きを受け入れて歩み出すなら、この選びの中に入れられた者となるということです。